

HUM200 文化資源論

2年 3,4クォーター

担当教員 東村 純子・朝倉 由希

授業形態 講義

アクティブ・ラーニング 該当しない

単位数 2

曜日・時限 未定

授業概要

文化資源とは、人間が生みだしてきた多様な文化の総体を、資源として捉えよりよい社会の実現のために有効に活用していこうとするものである。そこには、文化財や芸術文化といった狭義の文化だけでなく、より地域に密着した幅広い範囲を含む文化をも含む。文化資源を社会に活かしていくためには、地域の文化資源の調査や掘り起し、新たな価値の発見、現在から将来世代のための活用の手法の検討といったプロセスを要する。

本講義では、文化資源の持つ意義を多面的にとらえ、地域社会の発展や持続可能性に対しどのような有用性があるのかを理解するとともに、それを支える制度や具体的な手法、関わる主体等について、具体的な事例を交え検討していく。

到達目標

文化資源の概念を理解し、その多面的な意義を学ぶ。地域の各種資源について、調査研究、活用公開というプロセスを学ぶ。文化資源を活用し、どのような社会が実現できるのかについて理解を深める。

先修科目

考古学入門(共通教養科目)

教科書・参考資料等

《参考書》佐々木 雅幸 (著、編)『創造農村：過疎をクリエイティブに生きる戦略』 学芸出版社

授業の方法

担当教員は講義を行い、定期的に課題を与える。適宜、少人数グループでのディスカッションを行い、双方向性を意識する。

成績評価

学生は、講義での課題について小レポートにまとめ、提出する。また、グループ・ディスカッションを積極的に行う。

成績

30% 定期の小レポート

20% 授業中のディスカッションの状況

50% 期末試験

授業スケジュール

第1回：文化資源の定義

文化とは何か、文化資源とは何かについて概説し、現代的意義を考えることで、講義全体の目標を共有する。

第2回：文化政策の歴史的転回と文化資源

文化を公共的に支える仕組みとしての文化政策について、これまでの国内外の展開を概説する。その中で文化資源という概念がいかにして生まれてきたのかを概説する。

第3回：創造都市論と文化資源

文化の持つ創造性を地域づくりの核にすえる創造都市論は、文化資源の活用を考えるうえで欠かせない考え方である。創造都市に関する基本的な考え方と事例を概説する。

第4回：文化財をめぐる課題 保存から活用へ

文化財保護の基本をおさえたうえで、近年より文化財の範囲が広がり、またその活用が着目されていることを概説する。

第5回：歴史的建造物の活用

地域固有性を強く反映した歴史文化資源である、歴史的建造物の様々な活用方法とその意義を概説する。

第6回：景観政策

景観も文化資源のひとつと言える。歴史や風土を反映した良好な景観を維持形成するための制度や手法について概説する。

第7回：文化施設の制度と地域における役割

公立の文化施設は、文化資源の蓄積・研究・発信・交流のための重要な施設である。また地域の魅力を外部に発信する拠点としての役割も期待される。これらの施設の制度や現状、地域において果たすべき役割について概説する。

第8回：文化資源とコミュニティの維持形成

地域で継承されてきた文化や、現代的な文化表現活動等、様々な文化資源が地域コミュニティの維持形成に対し果たし得る役割について考える。

第9回：アートプロジェクト・芸術祭と文化資源

近年各地で開催されるアートプロジェクトや芸術祭においては、文化資源をリサーチし活かしたものが少なくない。それらのプロジェクトの事例を紹介し、意義を考える。

第10回：文化資源と観光

文化資源を観光に活かす取り組みについて、課題と可能性を概説する。

第11回：文化資源と福祉

人々が育んできた文化資源は、高齢者福祉や生きがいづくり、多世代の交流などに活用し得る可能性も持つ。その手法や意義を概説する。

第12回：文化資源とESD（持続可能な開発のための教育）

文化資源を地域教育に活かす手法について概説する。

第13回：現代社会と文化資源

現代社会における文化資源の課題について、国内の事例を紹介する。

第14回：文化資源と災害

災害時の文化資源の保全や災害後の継承について概説する。

第15回：文化資源の継承と人間社会の理解

これまでの内容をまとめ、社会の持続的発展に向けた文化資源の意義を考える。

事前・事後学習

- ① 上記に挙げた参考書を通読すること。授業中に予習用の資料を配布するので、事前に一読すること（1時間程度）。
- ② 講義内容を配布資料とともに復習し、理解を深めること。授業中に指示する課題についてレポートをまとめること（1～2時間程度）。